

令和5年度

教職課程

自己点検・評価報告書

倉敷芸術科学大学

令和6年5月

## 倉敷芸術科学大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

- ・芸術学部（メディア映像学科（高一種 情報））
- ・芸術学部（デザイン芸術学科（中・高一種 美術））
- ・生命科学部（生命科学科（中・高一種 理科））
- ・生命科学部（健康科学科（中・高一種 保健）（中・高一種 保健体育））
- ・生命科学部（動物生命科学科（中・高一種 理科））
- ・生命科学部（生命医科学科（中・高一種 理科））
- ・芸術研究科（美術専攻（中・高専修 美術））
- ・産業科学技術研究科（機能物質化学専攻（中・高専修 理科））

### 大学としての全体評価

本学はこれまで開放性を活用して小規模ながら教職課程を運営してきた。「教員養成に対する理念」としては、(1) 生涯にわたり自ら力量を開発することのできる教師、(2) 専門職にふさわしい実践的指導力の高い教師、(3) 子どもや保護者に信頼される人間性豊かな教師、(4) 地域社会・国際社会に貢献できる教師を養成することを掲げている。

今回の自己点検・評価を基準領域に沿って要約すると次のようになる。

基準領域1に関しては、教職課程の目的・目標を学生と教職員が共有できるように、学生便覧等に公開するとともに、学期ごとのオリエンテーションで教職課程履修者が再確認できるようにしている。また、教職課程の運営には、全学的組織である教職・学芸員課程運営委員会が中心となって、現状と課題の共有を行っている。

基準領域2に関しては、入学直後から教職課程の履修を始めないと必要単位数を満たすことが困難なことから、教員免許状の取得に少しでも関心のある学生は履修するように説明している。3年次からは、履修基準を充足した履修生に模擬授業に重点を置いた指導を行っている。

基準領域3に関しては、教職課程コアカリキュラムや「教科に関する専門的事項」の区分に応じたカリキュラムを適切に編成している。また、新学習指導要領に即した指導を行うための実践的な資質・能力を養成するために、3年次後期には模擬授業とふり返りを繰り返し行っている。

各基準項目の「改善の方向性・課題」で記したように、実際に自己点検・評価を行ってみると改善すべき点が多いことに気付かされる。今後、今回の結果を踏まえて必要な人的配置や環境整備を行うとともに、学生たちに教職に就く意義を啓発していきたい。

倉敷芸術科学大学  
学長 柳澤 康信

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	9
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	12
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	12
V	現況基礎データ一覧	14

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

- (1) 大学名：倉敷芸術科学大学
- (2) 学部名：芸術学部 生命科学部
- (3) 所在地：岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地
- (4) 学生数及び教員数

(令和5年5月1日現在)

学生数：

芸術学部	教職課程履修 16 名 (3 年次 11 名、4 年次 2 名) / 学部全体 475 名
生命科学部	教職課程履修 34 名 (3 年次 19 名、4 年次 15 名) / 学部全体 781 名

教員数：

芸術学部	教職課程科目担当 (教職・教科とも) 14 名 / 学部全体 19 名
生命科学部	教職課程科目担当 (教職・教科とも) 22 名 / 学部全体 34 名

### 2 特色

平成7(1995)年の開学と同時に、芸術学部美術学科に中学校・高等学校教諭一種の美術免許、芸術学部工芸学科に高等学校教諭一種の工芸免許、産業科学技術学部ソフトウェア学科に中学校・高等学校教諭一種の数学免許と高等学校教諭一種の情報免許、産業科学技術学部機能物質化学科に中学校・高等学校教諭一種の理科免許、教養学部教養学科に高等学校教諭一種の公民免許の教員養成課程を設置した。平成11(1999)年には、大学院修士課程設置にともない、芸術研究科(美術専攻・工芸専攻)、産業科学技術研究科(計算機科学専攻・機能物質化学専攻)、人間文化研究科(人間文化専攻)でそれぞれ専修免許の課程を設置した。

その後の学部学科の改組を経て平成26(2014)年からは、メディア映像学科で情報、芸術学部デザイン芸術学科で美術、生命科学部生命科学科、生命科学部動物生命科学科生命科学部生命医科学科の3学科で理科、生命科学部健康科学科で体育および保健体育の教員免許の取得に向けた教員養成を行っている。

メディア映像学科は、マンガやアニメ、イラストレーション、ゲームやCG、プログラミングやWEB・メディア・デザイン、映像や音楽などを自由に操れる技術力と、それらを生かしたコンテンツ制作力を身につけ、進化するメディア環境に対応できる表現力豊か

な未来のクリエイターを育成することを目的としている。

デザイン芸術学科は、イラストレーション、ビジュアルデザイン、生活プロダクトデザインの3分野からなるデザイン領域と、造形芸術、工芸、現代アートの3分野からなるアート領域から、興味のある領域・分野の学びを自由に組み立てて学ぶことで、各分野の専門性とすべての分野を横断する総合性を養うことを目的としている。とくに、企業や自治体と連携して地域や社会に基づくテーマに取り組むことで、実践力と就業力を磨くことに重点を置いている。

生命科学科は、生物、化学、工学などの基礎科学をもとに、フィールドワークを中心として魚類をはじめとする多様な水生生物の生態と自然環境を学ぶことで生命のメカニズムの解明する生態環境学系、美容、フード、アロマ、グリーンケミストリーを応用したバイオエンジニアリング系からなり、幅広くライフサイエンスを探究することを目的としている。

健康科学科は、年齢や性別、体力レベルなどを考慮して幅広い年齢層に最適な健康・運動指導ができる人材の育成を行う健康・運動指導者コース、スポーツ障害、コンディショニング、栄養管理などアスリートが抱える問題解決をサポートできるスポーツ医・科学のスペシャリストの育成を行うアスレティック・トレーナーコース、傷病者に的確な措置を行うための高度な医学的知識と技術が必要とされる救急救命士の育成を行う救急救命士コースからなり、「健康」を科学的・多角的にとらえ、的確な状況判断や決断力など臨機応変さが求められる各現場のニーズに対応できる、健康運動・スポーツ・教育・救急のスペシャリストを育成することを目的としている。

動物生命科学科は、獣医師をサポートする高度な知識や技術、飼い主とのコミュニケーション能力をもつ愛玩動物看護師（国家資格）、動物実験によりその製品の安全性を確認、分析、評価するうえでの動物の適切な飼育管理や取扱のみならず、動物看護の視点をもって苦痛の軽減に配慮した方法について配慮できる実験動物技術者1級を育成することを目的としている。

生命医科学科は、正しい医療は細胞検査士や臨床検査技師によって得られた正しい検査データに基づくことから、現場の臨床検査室が患者個々の検査データを保証するために臨床検査の臨床的意義、検査法、基準値、検査値に影響を与える変動要因、生理的変動要因などについて学び、確かな知識と技術を有する細胞検査士、臨床検査技師を育成することを目的としている。なお、生命科学部生命医科学科においては、国家試験である臨床検査技師に関連する必修科目が多いために教職課程履修者がおらず、2022年度入学生からは課程認定を取り下げている。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

##### 〔現状〕

「建学の理念」【資料 1-1-1】に則った各学科の「教育研究上の目的および人材養成の目的」や教育目標、ディプロマ・ポリシーに示す能力を身につけることにより教科の専門性を高めることを前提として、教職課程の目的・目標を設定している。

具体的には表 1 に示す「建学の理念」を基礎とする表 2 の「教育研究上の目的および人材養成の目的」にもとづいて、表 3 に示す「教員養成に対する理念」を定めて、(1) 生涯にわたり自ら力量を開発することのできる教師、(2) 専門職にふさわしい実践的指導力の高い教師、(3) 子どもや保護者に信頼される人間性豊かな教師、(4) 地域社会・国際社会に貢献できる教師——を養成することを目的としている。

表 1 建学の理念

ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する
--

表 2 教育研究上の目的および人材養成の目的

学部	教育研究上の目的および人材養成の目的
芸術学部	優れた創造性と深い専門領域の知識や技能を身につけながら人間性を培い、それぞれの感性と教養を通して各種の産業、行政、教育機関等の場で活躍できる人材を養成する。
生命科学部	生命科学は生命を取り巻く諸関連科学の総称であるが、生命に関する幅広い教養的知識を身につけ、生命科学の専門的知識・技能を生かして、社会のかかえている問題解決に貢献できる人材を養成する。

表 3 教員養成に対する理念

<p>本学における教員養成は、加計学園の建学理念「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し 技術者として 社会人として 社会に貢献できる人材を養成する」に基づいて、以下に掲げる教師の養成を目的としている。</p>
---

##### (1) 生涯にわたり自ら力量を開発することのできる教師

<p>「能力を最大限に引き出す」ためには、自己教育力の高い教師、すなわち教職生涯にわたる不断の研究と修養により、自己の能力を最大限に開発できる教師の育成が求めら</p>
--

れている。

そのために、在学中に授業などを通じて、自己教育や能力開発の方法原理に関する理解を深めるとともに、地域社会において子どもと係わる課題解決的な体験活動を重視した教員養成を志向する。さらに、卒業後の継続的な職能成長を図るために、教職に従事する卒業生を対象にした「加計教育研究助成金」制度を設けるとともに、「加計教育研究大会」を開催するなどして、継続的な研修機会を提供していく方針である。

#### (2) 専門職にふさわしい実践的指導力の高い教師

高度な専門性を有する技術者として、テクニカル・スキルやコンセプチュアル・スキルなどの実践的指導力の高い教師の育成をめざす。

そのために、教育実習の事前指導として、通常の授業はもとより、夏期休業中や春期休業中にも模擬授業を重点的に実施することにより、実際の教育現場で活躍できる実践的指導力の育成を重視する。また、教育実習の事前あるいは事後に、ボランティアティーチャーや学校インターンシップに参加して、さらなる実践的指導力の向上を図る。

#### (3) 子どもや保護者に信頼される人間性豊かな教師

具体的には、「教師である前にまず人間であれ」との基本方針を掲げて、良き社会人として豊かな人間性に立脚した実践的指導力の高い教師の育成をめざす。

本学の谷口澄夫・初代学長は、教師に求められる全人教育の必要性を強調し、熊沢蕃山の「文武に徳（知・仁・勇）と芸の本末あり」（『集義和書』）を引用して、教師も技術的な指導力（芸）がいくら高くても、子どもや保護者から信頼される人格性（徳）が具備されていなければ、真の教育者とはいえないと、本学の教職課程のあるべき基本指針を提示している。

この指針に沿った具体的な事例として、本学では開学当初から、附属校に準じた教育実習校（吉備高原学園高等学校）において、宿泊型教育実習を継続して実施している。集団生活を行うことにより、チームで行動する力量やストレスコントロールの能力が向上するなど、人間教育として有意義な教育実習となっており、今後ともより充実を図りたい。

#### (4) 地域社会・国際社会に貢献できる教師

本学は、地域になくてはならない地域密着型大学をめざしており、教育界はもとより地域社会をはじめ広く社会に貢献できる人材の育成を重視している。

そのために、キャリア教育の一環として、地域の子どもの対象にして、子どもの居場所作り等のボランティア派遣、小中学校への教育支援学生の派遣などを、積極的かつ継続的に実施しており、今後とも発展充実を図る構想である。

上記の「教員養成に対する理念」を所収する「教職・学芸員課程履修要綱」を学生便覧と大学ホームページに掲載することで、学生と教職員に周知している【資料 1-1-2、資料 1-1-3】。

学期はじめのオリエンテーションで、学科別オリエンテーションとは別枠で「教職・学芸員課程説明会」をもうけて、これまでの履修の進捗を踏まえた各学期の到達目標と課題について説明している【資料 1-1-4】。「教職課程履修カルテ」の一部として、1年次から

4年次までの各段階で身につけていくべき具体的項目を示した「ルーブリック評価」を明示して、教師に求められる力量、生徒関係と人間関係構築力、教科内容に関する知識・技能、教科等の授業づくりの力量、課題探求力の5領域について各年次の目標をチェックすることで、教職課程教育を通して育もうとしている学修成果を可視化できるようにしている【資料1-1-5】。

#### 〔優れた取組〕

特になし。

#### 〔改善の方向性・課題〕

これまで教職に就いた者が年に数名であることから、学生募集における学外への報提供として教職課程のことはあまり重視されてこなかった。これまで教職・学芸員課程運営委員会と教職FD研修会で教職課程の課題について共有してきたが、今回の自己点検・評価を機会に、全学の自己点検・評価委員会の検討項目に追加することで、全教職員で現状と問題の所在を共有する体制を整える予定である。

#### ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1-1-1：倉敷芸術科学大学ホームページ 建学の理念

<https://www.kusa.ac.jp/about-university/pres-message/>

- ・資料1-1-2：2023 学生便覧 P.35-53.

- ・資料1-1-3：倉敷芸術科学大学ホームページ 情報公開

D.教職課程に関する情報教員養成の目標、目標を達成するための計画および教員養成に係る組織、教員数

<https://www.kusa.ac.jp/about-university/outline/pdf/kyouin-rinen.pdf>

- ・資料1-1-4：令和5年度（2023年度）前期 在学生オリエンテーション、令和5年度（2023年度）後期 在学生オリエンテーション
- ・資料1-1-5：教職課程履修カルテ

### 基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

#### 〔現状〕

教職課程の運営に責任をもつ全学的組織として、カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成、卒業・進級、単位認定などを審議する学務委員会の下部組織として、教職専任教員（2名）および、教職課程ないし博物館学芸員課程をもつ学科代表者（6名）からなる教職・学芸員課程運営委員会を置いている【資料1-2-1】。この委員会は、（1）教職課程及び博物館学芸員課程に関する全学的な連絡調整、（2）教職課程及び博物館学芸員課程に関するカリキュラム及び時間割の編成、（3）その他教職課程及び博物館

学芸員課程に関する必要な事項——の協議・審議を行うために年数回開催している【資料 1-2-2】。また、教職専任教員は教学機構の 1 部門である教育開発センターの構成員として、教職課程と教養教育、学科専攻科目との連携・調整、学修成果の可視化へ向けての立案・実施・分析を行っている【資料 1-2-3】。

教員免許状の取得に必要な科目の単位修得状況を教務課が定期的にチェックして教職専任教員とチューターに報告することで、円滑な履修が可能になるような体制をとっている。

教職課程の質向上のために、授業評価アンケートで評価の高い科目を授業公開して授業改善の参考にできる機会をもうけている【資料 1-2-4】。また、教職課程教育の動向や課題を共有するために、年に 1 回、教職に関する科目を担当する教員を対象とする FD 研修会を開催している【資料 1-2-5】。中央教育審議会答申、全国私立大学教職課程協会および中国・四国地区私立大学教職課程研究連絡協議会、岡山県・岡山市教員等育成協議会で示されたトピックや議題をテーマに教員間で質疑応答を行っている。

教員養成の状況については大学ホームページ上に公開している【資料 1-2-6】。

教職課程認定基準を踏まえた教員を配置している。

#### 〔優れた取組〕

特になし。

#### 〔改善の方向性・課題〕

自己点検・評価をもとに教職課程のあり方を見直すことが組織に機能しているかという観点については、基準項目 1-1 に上げた〔改善の方向性・課題〕と同様である。

学習者用デジタル教科書を制度化する「学校教育法等の一部を改正する法律」等関係法令にもとづいて令和 6 年度から段階的に導入が開始されるデジタル教科書を用いた教育指導への対応については、教科書の発行者により使用ビューア（教科書やその他のデジタル教材を表示・使用するためのソフトウェア）が異なることから、本学の開設免許科目のうち「理科」の 1 社の導入を検討中である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1：教職・学芸員課程運営委員会\_名簿
- ・資料 1-2-2：教職・学芸員課程運営委員会申し合わせ
- ・資料 1-2-3：倉敷芸術科学大学教育開発センター規程
- ・資料 1-2-4：令和 5 年 前期授業公開科目 後期授業公開科目
- ・資料 1-2-5：令和 5 年 FD 研修会
- ・資料 1-2-6：D. 教職課程に関する情報 卒業者の教員免許状の取得状況 卒業者の教員への就職状況

<https://www.kusa.ac.jp/about-university/outline/>

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状〕

本学の教職課程では履修に際して登録制をとっていないが、新入生オリエンテーションで「教員養成に対する理念」および学生便覧をもとに1年次開講科目の説明をすることで、自主的な学びのなかで教員を志望する学生に対する履修指導を行っている【資料 2-1-1】。初めての履修登録のシステムに戸惑う学生に、学科の専攻科目と教職科目をCAP制の制約のなかで可能な限り科目配当年次に履修するように指導している。

1年前期に教職課程の科目を履修した学生を対象に、後期開始時に「教職課程履修カルテ」の作成について説明を行う際に改めて、教職課程の目標と各科目の体系的な位置づけを説明して計画的に履修するように指導している。こうした説明会を、1年後期から4年後期までの半期ごとのオリエンテーション時にもうけている。

「教職課程履修カルテ」はEXCELで作成し、3種のワークシートで構成している。履修してきた科目についてふり返りを行う「修得単位修得シート」、1年次から4年次までの各段階で身に付けていくべき具体的項目を示した「ルーブリック評価シート」、ふり返りをもとに学期ごとの目標を立てて4年間の学修を通して教職に必要な資質能力がどのように身につけてきたかを可視化する「自己評価シート」を作成することで、自己の課題と今後の学修計画、見通しをもたせるようにしている。

教育実習で十分な成果を上げることが目標となる3年次の「教育実習Ⅰ」のテキストには、各回の授業記録ノートに加えて教育実習生としての心構え、事前準備、Q&Aを掲載している。

1・2年次の単位修得を踏まえて3・4年次通年科目の「教育実習Ⅰ（事前・事後指導）」「教育実習Ⅱ（現場実習A）」「教育実習Ⅲ（現場実習B）」を履修するにあたって履修基準をもうけて【資料 2-1-2】、教職にふさわしい資質・能力をもてるように意識づけを行っている。

#### 〔優れた取組〕

教育実習Ⅰの講義のなかで岡山県教育委員会が作成した「教育実習評価モデル」に示されている各項目についてチェックすること、および教職課程履修カルテに「ルーブリック評価シート」を付加することで、教職課程教育による学修成果を可視化し、学生自身が教育実習までの課題を自覚して実践的な事前準備を行うことができるように促している。

#### 〔改善の方向性・課題〕

1・2年次のうちは、教職課程の履修にむけての意志や学修過程について把握する手段は半期ごとに提出される「教職履修カルテ」になる。履修上の困難を抱えている学生が

折々に相談に来ることは稀で、成績評価が終わった段階での「教職履修カルテ」にもとづく指導が主となる。教職課程履修への意欲を維持・向上することができるように、学期途中での学修状況を把握できるアンケートや面談などを実施できる体制づくりが必要である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1：2023 学生便覧 P.38-51.
- ・資料 2-1-2：2023 学生便覧 P.52.

### 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

#### 〔現状〕

教職資料室に教員採用試験対策の問題集、雑誌・新聞類を備え、開講日は終日、自由に利用できるようにしている。各学期のオリエンテーション時に教員採用に向けての準備の必要性を説明し、アンケートで現在抱えている問題や教員採用試験への意向を尋ねている【資料 2-2-1】。1・2年次では教職に就きたい程度は多様であるが、教育実習を目前に控える3年次までに「それほど教師になりたくない」と考える学生は履修をやめていることがわかる。

各地区の教育委員会や私立学校からの募集要項、非常勤講師の募集、模擬試験の情報を、学修管理システム（LMS）である WebClass を通じて3・4年次生に周知している。

教員採用試験への出願を考えている履修生に対しては教職専任教員が、学習指導案作成や試験対策の個別指導を行っている。

#### 〔優れた取組〕

特になし。

#### 〔改善の方向性・課題〕

教職課程履修者のうち教員採用試験を受験する学生はごくわずかで、学科専攻科目をもとにした資格取得や関連業種への就職を希望する者が大半を占める。教職に就くことの意義を十分に伝えきれていない。

令和6年度から教員採用試験の一部を3年次から受験できるようになるので、受験希望者を早期に把握して指導できる体制づくりが必要となる。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1：教職課程アンケート

## 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

### 基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

#### 〔現状〕

「教育の基礎的理解に関する科目等」については、文部科学省の定める「教職課程コアカリキュラム」の教育目標に従って系統的に配置している。2・3年次で開講している各免許科目の「教科教育法」を履修するまでに教科に関する専門的な知識・技能を十分に習得できるように、「教科に関する専門的事項」を学科の専攻科目の1・2年次に集中的に配置している【資料3-1-1】。

教職科目は全学共通の曜日時限に開講していることから、時間割の作成を教養科目と教職・学芸員科目で10月、学科専門科目で11月と時期をずらすことで、学科専門科目との重複開講を避けて履修生の学修機会を確保できるようにしている【資料3-1-2】。

中学校・高等学校での見学実習を伴う「教育実習Ⅰ」と「教職実践演習」、介護等体験、現場実習である「教育実習Ⅱ・Ⅲ」については、大学の他の授業を欠席せざるを得ない場合には、「自己都合によらない授業欠席」の取扱いに関するガイドライン【資料3-1-3】を適用して、欠席回の授業内容や課題・レポート等を学修管理システム

(WebClass)を利用して課すことによって、学修を補完している。

シラバス作成時には、課程認定時の到達目標と授業計画を変更しないよう担当教員に注意を促し、その後シラバスチェックを行って同一性を担保している。

#### 〔優れた取組〕

特になし。

#### 〔改善の方向性・課題〕

「基礎的な科目から実践的な科目へ」というモットーで科目の年次配当を決めているが、それが十分に機能しない場合がある。

ひとつには、「教科に関する専門的事項」は専攻科目であるため、CAP制のなかで他の専攻科目も履修すると「教科に関する専門的事項」を配当年次に履修できないことによる。

もうひとつは、学生の履修機会を確保するために在学中に同一科目を2回は履修できるようにしているが、ある年次の開講科目を再履修する必要が生じた場合に、次年度に専攻科目と時間割が重複して履修できないことによる。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：2023 学生便覧 P.42-55.
- ・資料3-1-2：学務委員会 シラバス作成スケジュール
- ・資料3-1-3：「自己都合によらない授業欠席」の取扱いに関するガイドライン

## 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

### 〔現状〕

教育実習の実効性を上げるために、免許科目の「教科教育法」および「教育実習Ⅰ（事前・事後指導）」で学習指導案の作成と模擬授業を重要視している。一斉授業が必要な場合はあるが、そこで修得した知識・技能をもとに、グループワークやICTを利用した調べ学習や発表などを取り入れることで、新学習指導要領での評価の観点となる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性など」の3つの資質・能力の育成につながるように指導している。

「教育実習Ⅰ」の模擬授業では、全学科の履修生がいっしょに参加するため、教える側としてはあたりまえと思っている内容が他学科の履修生にとっては理解が困難であるということに気づくことがある。この気づきが、生徒の理解度に配慮した指導案作成と授業展開になるのに役立っている面がある。また、「教育実習Ⅰ」の一環として、3年次6月の時期に教育提携校の岡山県立総社南高等学校、関連校である岡山理科大学附属高等学校において教育実習生の授業を見学した後に指導教員や教育実習生と質疑応答する経験も、教育現場における生徒の実態を知る機会となっている【資料3-2-1、資料3-2-2、資料3-2-3】。3年次9月に教育提携校である岡山県立鴨方高等学校で実施している見学実習では、生徒といっしょに活動できる機会をもうけている【資料3-2-4】。

設備面では、教職資料室に各出版社の教科書と教師用指導書、「教科に関する専門的事項」の参考資料を備えるとともに、黒板を利用して模擬授業の練習をできるようにしている。

4年次後期の「教職実践演習」は4年間の学修をふり返り、各自の課題を明確にして改善の方策を考えることで教師の資質能力の向上を図ることを目的としており、その一環として教育提携校の倉敷市立連島南中学校での見学実習をもとに意見交換している【資料3-2-5】。

その他、岡山県教育委員会から毎年、「教師への道」研修と「教師への道」インターンシップ事業の募集があり、教職課程履修学生へ広く告知し、参加を促している。

### 〔優れた取組〕

特になし。

### 〔改善の方向性・課題〕

実践的指導力を身につけるためには学校インターンシップへの参加が重要であるが、時間割の空きが少ないこと、中学校・高等学校への移動時間の確保が難しいことなどの理由のため、学校インターンシップへの参加はきわめて低調である。

指導力の育成のために教職資料室を積極的に利用するように促しているが、実際には学習指導案の作成時の利用が主になっている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1：令和 5（2023）年度 教育実習実施計画
- ・資料 3-2-2：2023 年度 倉敷芸術科学大学見学実習（岡山県立総社南高等学校）
- ・資料 3-2-3：2023 年度 倉敷芸術科学大学見学実習（岡山理科大学附属高等学校）
- ・資料 3-2-4：2023 年度 倉敷芸術科学大学見学実習（岡山県立鴨方高等学校）
- ・資料 3-2-5：令和 5（2023）年度 「教職実践演習」シラバス

### Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

#### 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

教職課程の目的・目標を学生と教職員が共有できるように、学生便覧等に公開するとともに、学期ごとのオリエンテーションで教職課程履修者が再確認できるようにしている。

教職課程の運営には、全学的組織である教職・学芸員課程運営委員会が中心となって、現状と課題の共有を行っている。

#### 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

1年次前期から教職課程の履修を始めないと必要単位数を満たすことが困難なことから、教員免許状の取得に少しでも関心のある学生は履修するように説明している。教育実習に向けての本格的な準備が始まる3年次からは、履修基準を充足した履修生に模擬授業に重点を置いた指導を行っている。

教員採用試験への準備に必要な資料を備えているが、教員採用試験を受験する学生は数人にとどまっていることが課題となっている。

#### 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

教職課程コアカリキュラムや「教科に関する専門的事項」の区分に応じたカリキュラムを適切に編成している。

新学習指導要領に即した指導を行うための実践的な資質・能力を養成するために、3年次後期には模擬授業とふり返りを繰り返し行っている。

教育現場の状況を理解できるように見学実習を複数回取り入れているが、自主的な学校インターンシップへの参加は低調である。

### Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

教育職員免許法施行規則改正にともない、令和4年度教職課程自己点検・評価の義務化について、令和3年5月7日「教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議」（中央教育審議会）から「教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン」（3文科第117号）が公表され、教職課程自己点検・評価の令和4年度義務化に伴う大綱が示された。

これに対応して本学では、一般社団法人全国私立大学教職課程協会の「教職課程自己点検・評価基準」に準じて教職課程の自己点検評価を実施することになり、令和5年12月21日の第27回学長会議において、資料「2023年度教職課程自己点検・評価の実績について（案）」のスケジュールで自己点検・評価報告書を作成すること、令和6年6月末までに倉敷芸術科学大学教職課程自己点検・評価報告書を大学ホームページに公表するとともに一般社団法人全国私立大学教職課程協会へ報告書を提出することが決定された。

表 令和5年度教職課程の自己点検・評価のスケジュールおよびその担当

項目	スケジュール	担当
1) 自己点検・評価の実施方針・手順の決定	12月21日	教職・学芸員課程

目標：大学の教職課程を評価対象とすることで、 教職課程の質的改善・向上に資するような項目を 可視化する 実施期間：令和5年度 対象領域：「作成の手引き」に準拠		運営委員会
2) 自己点検・評価の実施	1月～3月	各学科・教職課程
3) 報告書の作成・協議による確定	3月末	教職・学芸員課程 運営委員会
4) 学長会議へ実施内容の報告	4月	教職・学芸員課程 運営委員会

## V 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

法人名 学校法人加計学園	
大学・学部名 倉敷芸術科学大学 芸術学部 生命科学部 芸術研究科 産業科学技術研究科	
学科・コース名（必要な場合）	
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等	
① 前年度卒業者数	302
② ①のうち、就職者数  (企業、公務員等を含む)	224
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数  (複数免許状取得者も1と数える)	19 (内訳) メディア映像学科 2 デザイン芸術学科 5 生命科学科 4 健康科学科 5 動物生命科学科 3
④ ②のうち、教職に就いた者の数  (正規採用+臨時的任用の合計数)	4 (内訳) メディア映像学科 0 デザイン芸術学科 2 生命科学科 0 健康科学科 2 動物生命科学科 0
⑤ のうち、正規採用者数	2 (内訳) デザイン芸術学科 2
④ のうち、臨時的任用者数	2 (内訳) 健康科学科 2

2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ( )
教員数	35	21	8	3	
相談員・支援員など専門職員数 0名					